

On the Image of the Wife of Bath
in Geoffrey Chaucer's *Canterbury Tales*

重松明来

さまざまな巡礼者が登場し、話を語っていく『カンタベリー物語』をおもしろいと思っていた。中でも、最も興味があった登場人物は Wife of Bath である。この物語が書かれた頃の女性像に反するような人物を、なぜチョーサーは描いたのか研究したい、と思ったのが私の卒業論文の動機である。

まず第 1 章では、この物語が書かれた中世イギリス社会での女性のイメージについて、またそれにとらわれなかった、注目すべき女性について調べている。そして第 2 章では ‘Wife of Bath’s Prologue’ に沿って、強烈な Wife の言葉を引用しながら、彼女の考え方を明らかにしている。また、5 人の男性と結婚生活の中で、自分の経験や本来の女性の性格を活かして、それぞれの夫をどのように支配したかを探っている。最後に第 3 章では、著者チョーサーがなぜ Wife を描いたのかを、彼自身の経験や、モデルとなるような女性 Margery Kempe が存在していたことなどに求めながら、考察した。

結論としては、wife の言葉に著者の考え方が十分表わされていることが分かった。そしてその言葉から、経験を積み、身を立てる大切さを学んだ。私もあらゆることに取り組み、経験を積んで人生を豊かにしたい。

今回は ‘Wife of Bath’s Prologue’ のみに焦点を置いて研究したので、今後は Tale との関連も調べたい。また、経験について書かれた話が他にあるか探し、Wife of Bath の話との関連を探りたい。